

ガイドの目から見たジオパーク ～土砂災害被災後に思う～ Think about the Geopark - After landslides disaster from the eyes of the guide

西谷 香奈^{1*}
NISHITANI, Kana^{1*}

¹ 伊豆大島ジオパーク
¹ Izu Oshima Geopark

私がジオパークを知ってから3年半が経った。私は地球と動植物と人間が関わり合う物語に魅了されながらガイドを続けてきた。私にはツアーは毎回「世界にただひとつの物語」のように感じられた。それは、お客様の感性や、不思議を発見する目、知識や、経験がそれぞれ違うためだと思う。

今年の10月16日、伊豆大島では台風26号の大雨による土砂災害で、36名の方が亡くなり、3名が行方不明となった。私たちは「水はけが良い若い火山の島」「津波や噴火は怖いが洪水は心配ない」と思っていた。私たちにとって災害は予想外の出来事だった。

私は「危険に気づけなかったこと、被害にあわれた方達に伝えられなかったこと」に、やりきれない思いを感じた。もし私がそれを伝えられていれば、無くさないですんだ命があったはずだった。そして、災害前は簡単に語っていた言葉「私たちは火山が作った大地の上に住んでいる」の奥には、たくさんの悲しみや、大変な思いがあることを実感した。

今、伊豆大島は復興に向けて歩み始めている。そこには時間の経過とともに変化する様々な問題がある。私は災害や復興に向き合うことが、ジオパークそのものであると感じている。

伊豆大島では災害1ヶ月後の11月には火山専門家による住民セミナー、2月に島原半島ジオパーク、三陸ジオパーク、そして三宅島から講師を招いて話しを聞いた。異なる地域と情報を共有したことは、島民にどのような変化をもたらしたのだろうか？

災害後の様々な取り組みを通し、ジオパークのネットワークとしての役割を考察する。

キーワード: ジオパーク, ガイド, 伊豆大島, ネットワーク, 災害, 役割
Keywords: geopark, guide, Izu Oshima, net work, disaster, rule